タイトル

『汐製菓会社の新作 52　今川焼 2』

登場人物

- **汐（しお）**：30 代、汐製菓会社社長。「面白きことも無き世を面白く」をモットーに、斬新すぎるお菓子アイディアを次々に考案する。飄々とした性格で、物事を前向きに捉える天才。
- **塩田（しおだ）**：30 代、汐の秘書。真面目で心配性な性格。いつも汐の突飛な発想に振り回されるが、実は無類のお菓子好きで、製菓会社で働くことに憧れていた。
- **外国人バイヤーたち**：
  - **ジョン（アメリカ）**：ビジネスに厳しいが、珍しいものに目がないアメリカ人バイヤー。

- **マリア（イタリア）**：カルボナーラに強いこだわりを持つ、厳しい目を持つイタリア人女性バイヤー。
- **リー（中国）**：伝統と新しいアイデイアに興味がある中国人バイヤー。
- **エリック（ドイツ）**：保守的な食の好みを持つドイツ人バイヤー。
- **アナ（スペイン）**：陽気でオープンマインドなスペイン人バイヤー。

シーン1：汐の奇妙な発想（10分）

舞台：汐製菓会社のオフィス。机の上に書類が散らばり、塩田がパソコンで作業をしている。汐は窓の外を見つめて何かを考え込んでいる。

汐：（突然、明るい声で）

「塩田！ついに来たぞ、我が革命的アイディアが！」

塩田：（作業の手を止め、振り向いて）

「嫌な予感しかしません……今度は何ですか？」

汐：（自信満々に）

「次の新作、**カルボナーラ味の今川焼**だ！」

塩田：（驚きながら）

「え……カルボナーラ？それ、普通はパスタですよね？まさか、それを今川焼に……」

汐：（得意げに）

「そうだ！和と洋の夢のコラボレーションだ。これが新しい時代のお菓子なんだよ！」

塩田：（ため息をついて）

「和と洋……って、今川焼は甘いお菓子です

よね？カルボナーラは塩っぽい。相性悪いに決まってますよ。」

汐：（ニヤリとしながら）

「そんな固定観念をぶち破るのが、我々の使命だよ！さあ、早速試作品を作ろう！」

塩田：

「（苦笑いしながら）どうせ止めても無駄なんですよね……。」

塩田はため息をつきながら机の上の資料をまとめ、試作品作りの準備にかかる。ここで、汐の明るく前向きなキャラクターと、塩田の振り回される様子がコミカルに描かれ、二人の掛け合いでテンポを作る。

シーン2：試作品の開発（15分）

舞台：汐製菓の工場。大きな機械が並び、職人たちが働いている。汐と塩田が工場内に入ってくる。汐は威勢よく指示を出している。

汐：

「さあ、みんな！今日は画期的な日だ。我々は新しい歴史を作る！**カルボナーラ味の今川焼**だぞ！」

職人A：（戸惑いながら）

「カルボナーラ……味の今川焼？それ、ちょっと変わりすぎじゃ……？」

汐：

「変わっているからこそ面白いんだ！伝統に新しい風を吹き込むんだよ。」

塩田：（頭を抱えながら）

「汐社長、どうせまた……やっぱりこうなるんですね。」

汐：

「まずはたっぷりクリーミーなソースを中に詰め込むんだ！味が濃ければ濃いほど、インパクトが出る！」

職人B：（心配そうに）

「社長、これ、はみ出しそうですよ……」

汐：

「それがいいんだ！はみ出すくらいの情熱を込めてこそ、真の革新が生まれるんだ！」

（大きな湯気とともに、試作品が完成。塩田が恐る恐る試作品を手に取り、かじろうとするが、その前にソースがこぼれ落ちる。）

塩田：（苦笑いしながら）

「もう何が何だか……食べる前にソースが飛び散っちゃうじゃないですか。」

汐：（満面の笑みで）

「それが新しい食べ方だよ！インタラクティブな体験だ！」

ここでは、機械が動く音やクリームがはみ出すギャグを視覚的に強調。塩田が困惑しながらも試作品に挑戦し、汐の無茶な指示に職人たちが戸惑う様子が笑いを誘う。

シーン3：試食会の混乱（15分）

舞台：試食会の部屋。テーブルにはカルボナーラ味の今川焼がずらりと並んでいる。従業員たちが座り、汐と塩田が前に立っている。塩田が司会を務める。

塩田：

「皆さん、こちらが新作のカルボナーラ味今川焼です。どうぞお召し上がりください。」

従業員１：（恐る恐る手に取って）

「えっと……パスタの味がするお菓子って……なんだこれ？」

従業員２：（一口食べて）

「甘いのかしょっぱいのか、わからない……」

従業員３：（困惑した表情で）

「これ、どっちつかずな感じですね……口の中が混乱してる！」

（従業員たちは次々と奇妙な表情を浮かべていく。塩田は冷や汗をかきながら様子を見守るが、汐は自信満々に腕を組んでいる。）

塩田：

「やっぱり、ちょっと無理があるんじゃないですか？」

汐：

「まだだ！この味は世界に通用するんだ！次は**国際食品博覧会**で勝負だ！」

従業員たちのリアクションを強調し、それぞれの異なる反応や表情をコミカルに演出することで、場面のテンポを保ちながら時間を稼ぐ。

シーン4：国際食品博覧会での挑戦（20分）

舞台：国際食品博覧会の会場。世界中のバイヤーたちが集まり、カルボナーラ味の今川焼がテーブルに並んでいる。汐が前に立ち、熱心にプレゼンテーションを行う。

汐：

「皆さん、これが我々の新作です！カルボナーラ味の今川焼、ぜひお試しください！」

バイヤーたちはそれぞれ疑問を抱えつつ、一口ずつ食べ始める。

ジョン（アメリカ）：
「これは……日本の伝統的なお菓子と、イタリアの料理の融合？」

マリア（イタリア）：
「カルボナーラはイタリアの誇りです！この今川焼で表現されるのは……まあ、面白い挑戦ね。でも味は……うーん……」

リー（中国）：
「伝統に新しいアプローチか……でも、これはちょっと複雑すぎる。」

エリック（ドイツ）：
「これは保守的なドイツの味覚にはちょっと合わないな……」

アナ（スペイン）：
「陽気で新しいものが好きなスペイン人には、もしかしたらウケるかもしれないわ！私は好きよ！」

塩田：（心配そうに）

「どうですか……みなさん？」

それぞれの国の文化や味覚の違いを強調し、バイヤーたちのリアクションを細かく描く。各国のバイヤーが独自の視点で製品を評価する様子を笑いを交えて展開することで、時間を延ばす。

シーン5：次なる挑戦への予兆（10分）

舞台：オフィスに戻ってきた汐と塩田。汐は次のプロジェクトを思いついた様子でニヤニヤしている。

汐：

「フフン、塩田。次のヒット作も既に考えているよ。」

塩田：（警戒しながら）
「次はどんな……お菓子なんですか？」

汐：（自信満々に）
「**抹茶味のタコスだ！**」

塩田：（絶句して）
「またトンデモ商品が……！」

笑いを誘うやり取りで幕が閉じ、次なる奇想天外な挑戦が匂わされる形で作品が締めくくられる。